

# 鹿児島県立博物館研究報告

第7号 (昭和63年)

BULLETIN OF THE KAGOSHIMA PREFECTURAL MUSEUM

No.7 (1988)

---

福田晴夫・二町一成・守山泰司：日本産ナガサキアゲハの有尾型雌について (第4報) .....	1
〔短報〕 路傍300種学習会(官之城町)で見られた昆虫 (福田晴夫) .....	4
畑田健治・石作義盛：鹿児島県におけるカスミサンショウウオの発見 .....	5
弓削政憲：手作りの「科学遊びコーナー」の設置について .....	13
永正重俊：プラネタリウム用スカイライン夜景撮影の試み .....	19
高木 繁：学校教育と博物館(2) .....	27
諏訪昭千代：地下式横穴墓・地下式板石室墓の時期と系譜について .....	41

---

Haruo Fukuda, Kazunari Nichô and Taiji Mōriyama : Preliminary notes on the tailed females of the Great Mormon <i>Papilio memnon</i> L. (Papilionidae, Lepidoptera) in Japan. (IV) .....	1
Kenji Hatada, Yoshimori Ishizukuri : Discovery of <i>Hynobius nedulusus</i> (SCHLEGEL) in Kagoshima pref. ....	5
Seiken Yuge and Kunio Uchimura : Newly devised equipments in the exploration corner. ....	13
Shigetoshi Nagamasa : Some examples of the camera works for the night scene skyline used in the planetarium .....	19
Shigeru Taki : The connection between the schooling and the museum communication activities II .....	27
Akichiyo Suwa : Investigations on the time of Chikashiki Yokonanabo, <i>Pit-cave burial chamber</i> and Chikashiki Itaihisuzumi Sekishitsubo, <i>Cist burial in pit-cave</i> , together with their relationships .....	41

---

鹿児島県立博物館

KAGOSHIMA PREFECTURAL MUSEUM

KAGOSHIMA, JAPAN

# はじめに

多くの博物館で研究報告書が刊行されており、それらは極めて多彩ですが、結局はその博物館の特色をよく表しているようです。これもまた博物館のひとつの顔といえましょう。

印刷物として世に出たこれらは、当然さまざまな評価を受けることになります。その規準もまたいろいろ考えられますが、その地域性をよくわきまえ、足が地についたもので、しかも、広い世界につながり得るものであることも、優れた報告書のもつ条件ではないかと思えます。またそれは、選びぬかれた言葉をつらねた事実の記録であり、著者が自分で考えぬいた論理であります。これは易しいようで難しく、難しいようで易しいことのようにも思われます。

当館も新装オープン後8年目に入り、本誌も第7号になりましたが、短い歴史をふり返っているうちに、旧館時代の昭和32年に発行された「博物館研究報告」(第一号)に思い至りました。そこには1人でこつこつと研究に情熱を傾け、「エラブウナギの人工孵化」を発表された故永井亀彦先生の偉業があります。人は印刷物に永遠の生命を吹き込むことができるものです。

ところで、本誌はいたって未熟なものですが、かざり気のない姿で、背のびせず、多くの人たちに何年も利用していただけるよう念じつつ作りあげました。御批判と御指導を賜れば幸いです。

昭和63年2月

館長 北原昭男

---

鹿児島県立博物館研究報告  
第 7 号

昭和63年 3月31日発行

編集・発行 鹿児島県立博物館

〒892 鹿児島市城山町1-1

TEL (0992) 23-6050

印刷所 (有) 明るい窓社

〒892 鹿児島市上本町14番7号

TEL (0992) 24-5050(代)

---

鹿児島博研・*Bull. Kagoshima Mus.*